



東かがわ市議会議長

橋本 守 様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)

山口 大輔



行政視察等報告書

1	日 時	令和1年9月30日 から 令和1年10月2日	
2	参加者	会派等 みどりの風 (渡邊堅次、山口大輔、田中久司) 市民の会 (井上弘志、木村作)	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		人口維持を行うための取組について	東川町
		議会におけるインターネット中継の取組について	滝川市
		まちづくり会社との協働による取組について	富良野市
4	研修・調査内容	<p>人口減少対策のため、国内で唯一行政が運営している日本語学校を運営し人口増にも努めている東川町を中心に、観光施策で街の活性化に取り組んでいる富良野市、議会広報を積極的に推進し、地域との連携に努める滝川市の3自治体の視察を行った。 詳細については別紙に記載する。</p>	
5	研修成果	<p>別紙のとおり (感想・今後の取り組み等)</p>	
6	費 用	97,794 円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

視察研修報告書

2019年9月30日～2019年10月2日

東かがわ市議会議員 山口大輔

テーマ：人口維持を行うための取組について

視察地：東川町

日 時：2019年9月30日

1. 研修・調査内容

日本で唯一の日本語学校を運営し、外国人の留学生を受け入れながら地域発展や活性化並びに人口増に繋げている東川町。その取り組みを学ぶ中で、地域との協働や就業としての外国籍の方への考え方をどのように工夫しているか学ぼうと考えた。

2. 研修成果

(a) 移住定住施策について

・宅地の分譲

最近では農地なども積極的に分譲できるよう農業委員会への働きかけも行っている。また分譲地によっては補助を出す代わりに景観協定を順守してもらうことでトータル的なバランスを維持している。主な利用者として市外、道内の方が中心である。

・「椅子」プロジェクト

東かがわにファーストグローブ制度があるように、東川町では出産記念として木の椅子を配っている。発展的な事業として、中学校1年になると全員に手作りされた椅子が配られる。卒業の日と一緒に学んできた椅子をプレゼントするなど思い出の品にもなっている。地場産業への理解とPRに役立っていると思われる。また卒業までの学校生活の思い出として実際に使用した記憶が残るのも素晴らしい試みだと思った。当市の事業がどのように親子で使用されているかもきちんと把握したいと考えた。

・合併した学校

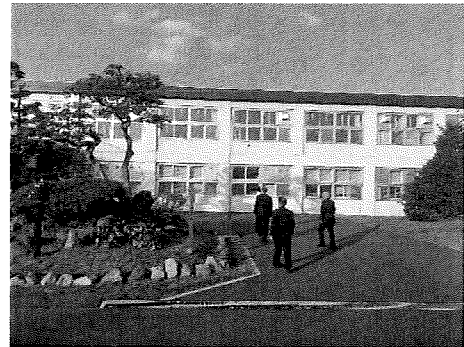
日本語学校視察の際合併した東川小学校に立ち寄る。平屋の校舎は延長270m。総敷地面積は16ヘクタール（学校敷地4ヘクタール、残りの12ヘクタールに野球場、サッカー場、多目的広場、試験農場、果樹園、1ヘクタールの水田が存在する）。水田では実際に生徒が稲を育てており、学校給食の大半をここで取れた米でまかなっている。教室同士の壁を作らないことでオープンな環境を生み出している。この学校を見学した保護者がここで学ばせたいと移住を決めたケースもみられるなど、教育と環境が定住促進にもつながっている。

(b) 東川町立東川日本語学校について

廃校を利用し、近隣に寮を設置することで生活圏域が確立されていた。学校自体が本来地域の中心にあったことから、地元との関係性もうまくできており共生できている様子が

うかがわれた。年間 300 人が学んでおり、平成 25 年には卒業生が中心となり台湾東川会も発足している。視察時は海外企業の社長も訪問し、学生と話し合いを行っていた。この企業は定期的に訪問する機会が増えたことから、町内に支所を構えたという事である。

活動の趣旨として、学んだあと住んでもらうことは意識しておらず、住民と外国人が接する機会を持ちたいという事であった。何人かは町内、道内に残り就職したり結婚したりする事例もある。(学校紹介については添付資料参照)



(c)日本語学校視察（校舎活用と併設施設の様子）

合併により廃校となった小学校跡地を活用。交流施設として敷地内に「せんとびゅあ」という建物を併設。学生寮としての活用や、町民図書館として活用している。

既存施設をうまく活用し外国人留学生と地域の方が交流を測れる環境が作られている様子がうかがわれた。特に併設図書館は秀逸で、地域の名産の販売や紹介、飲食可能なブースを常備し、屋外は芝生公園と様々なニーズで集まることができる空間としている。また市のふるさと納税に関する窓口が設置されていることから、地場産業の紹介や物産のPRなども十分行えている。図書館を本を借りるためだけの場所にしないという担当者様の発言からわかるように、定住や交流に向けて強いミッションのもと動いている姿、またミッションを持って動く重要性を強く感じた。

登校	8:20 ~ 8:50
SHR	8:50 ~ 9:00 < ショッピング >
1	9:00 ~ 9:45 < 休 み 9:45 ~ 9:50 >
2	9:50 ~ 10:35 < 中休み 10:35 ~ 10:55 >
3	10:55 ~ 11:40 < 休 み 11:40 ~ 11:45 >
4	11:45 ~ 12:30 < 昼休み 12:30 ~ 13:30 >
5	13:30 ~ 14:15 < 休 み 14:15 ~ 14:25 >
6	14:25 ~ 15:10
下校	短期生は 12:40 長期生は 15:20

3. 今後の行動計画

想像していた外国人技能実習生対策としての日本語学校としての取組ではなかったものの、それ以上に地域との交流人口をどれだけ増やし活性化していくかの糸口を学ぶことができた。今東かがわ市にも外国籍の方が多数生活しているが、地域との交流になるとどうしても限定的に思われる。先般イングリッシュカフェの質問をしたように、より日常的に触れ合える事業の推進に努めていきたい。

また、物事を作っていくためにははっきりした将来像、ビジョンの構築が必要不可欠である。今後計画されている温浴施設、温水プール、体育施設の統廃合に合わせ、より交流ができる場所づくりに向けた計画立案が出来るよう、今後も強く提言していきたい。